

日交研シリーズ A-758

平成 30 年度研究プロジェクト

「路上の時間制限駐車区間の運用方法に関する研究」

刊行：2019 年 10 月

路上の時間制限駐車区間の運用方法に関する研究
A Study of Parking Operation at the on-street parking facilities

主査：小早川 悟（所属 日本大学）

Satoru KOBAYAKAWA

要 旨

わが国では都市部を中心に、パーキング・メーター（PM）やパーキング・チケット（PT）などの時間制限駐車区間規制により、合法的に路上への駐車が認められる区間が存在する。この時間制限駐車区間規制は、路外駐車施設の十分な整備が進むまでの暫定運用という原則があるが、本規制が制定された当初と比較すると、近年は乗用車の路外駐車施設の整備が着実に進んできている。このような状況の中で、時間制限駐車区間は設置の仕方や運用方法を現状とあったものに変更していく必要がある。そこで本プロジェクトでは、路上に設置されている駐車施設の運用形態の整理を行い、運用条件の異なる時間制限駐車区間におけるドライバーの駐車行動の分析を行った。

その分析結果から、従来型 PM の時間制限駐車区間では短時間駐車車両が多数を占め、PM が適切に利用されていない実態が明らかとなった。また、短時間型 PM では駐車枠に手数料を支払わない車両が駐車する割合が高まる可能性があることが示唆された一方で、従来課題とされてきた荷さばき貨物車の路上駐車に対して、路上にベイを作成して荷さばき貨物車に限り無料で 20 分まで駐車を認める運用の方が、ルール内利用が増える結果となった。

キーワード：貨物車、端末物流実態、時間制限駐車区間

Keywords : Freight vehicles, Delivery situation, Parking Meter Section